



塾長あいさつ



ブーゲンビリアを育てて心穏やかに



マッターホルン

爽やかな5月から梅雨の6月になって我が家のベランダには少しの野菜が芽をだし、南国の花、ブーゲンビリアが満開だ。梅雨末期の集中豪雨が心配だが、私の心は、このまま静かに夏になって貰いたい。そんな私の気持ちとは裏腹に、政治の世界は腹が立つ事ばかり。年十数億円に上る政策活動費の使い道はどうしても明らかにして貰いたい。

「政治活動を国民の不断の監視と批判の元に置く」という目標にはほど遠い法律だ。

裏金づくり法案。政治資金規制法改正のニュー

ースを聞く度に不愉快になる。何かを誰かにぶつけて、気分を晴らしたい。カスハラはそんな気分から誰かに、文句をつけたい人に口に出して、態度に表れてしまうのではないか。政治が悪いから、世の中に不満がくすぶってクレーマーが増えて、ますます住みにくい世の中になっていくのだろうか。

領収書は10年隠す？まさか領収書に感熱紙は使わないだろうな。感熱紙ならば10年後は真っ白けだな。黒塗りも有りかな。

改正法案は成立しました。生活費カツカツなのは庶民。政活費ざくざくなのは議員。政策活動というなら、どんな政策を実現する費用なのか教えて欲しい。

今後の対応は：「検討が加えられ、その結果に基づいて必要な措置が講ぜられるものとする」。これじゃ国民は理解出来ません。



氷河特急でランチ

裏金を貯め込みながら税金を払わず、説明からにげ続ける議員。アンタは国民の代表なんだよ。私が歯ぎしりしたところで、裏金づくりは続くだろう。



インドネシア自宅のブーゲンビリア 2006 年

合計 15 年間暮らしたインドネシアの自宅にはブーゲンビリアの大木があった。いつか日本でも咲かしてみたいと夢見ている



蕨の自宅のブーゲンビリア 2009 年
足利から買って来た鉢植えが大きくなった



12 月 自宅のブーゲンビリア 2023 年

1996 年 9 月にスイスのレマン湖畔のホテルの庭にブーゲンビリアが咲いていたのを見つけた。スイスで咲くなら、日本でも咲くだろう。それから 13 年後、2009 年日本で探した。

足利のフラワーパークで鉢植えを見つけて買って来た。



6月 自宅のブーゲンビリア 2024年

私はこの花に魅せられて、一年中世話している。12月から3月、5月から6月、9月から11月まで3回咲く。知人に園芸の得意な人がいて、剪定の仕方を教わった。花が終わった後で、新芽を挿し木して、この15年間に20株に増えた。

どうにもならない政治の世界よりも、世話するだけ応えてくれる花の世界に身を置くのが私のストレス解消法だ。円安で外国人が一杯溢れているが、本当は政治の世界でも来日者に誇れるような政策を実行して欲しい。裏金が横行しているのは恥ずかしい限りだ。

完



2024年6月13日 笑楽日塾 塾会 報告

期日 2024年6月13日(木) 17時30分～19時30分

会場 スポーツクラブ NAS 5階ロイヤルルーム

出席者 八木、吉田、内田、新井齊、星、高木、南、清藤、荒井 9名

欠席者 先崎、菊地



例年6月7日頃が梅雨入りですが、今年は梅雨入りが遅れています。
紫陽花が見頃です。5月28日、八木さんが紫陽花の和歌を送ってくれました。
若山牧水
『紫陽花の その水いろの かなしみの 滴るゆふべ 蝸(かなかな)のなく』
【意味】紫陽花のその水色が悲しみに滴る夕べにカナカナが鳴く。

塾生は、老後の時間をボランティアとして地域のために使っている人、60代で現役の建築士、70台で包丁関連の特技を持って仕事している人、特殊な病気が有りながら、町会やマンションの役職を引き受けている人、80代半ばでも現役で仕事している人など様々な分野で活躍している。
今夜は、その活躍振りを語って頂いた。

清藤さん:

85歳になってもまだ仕事している。駅地下駐輪場で自転車の整理をしているが、カスハラを経験した。有料バーにぶつかった人を手伝ってやったら、「お前が悪いんだ」と言いがかりをつけられ、料金を踏み倒された。

吉田さん:

新井邦夫さんのあとを受けて、4月から、中央小学校の放課後子ども教室の実行委員長をしている。5月27日～29日夫婦で白浜～熊野を旅した。雨に降られたが楽しかった。
羽田～伊丹～和歌山～関空～羽田
パンダが4頭いた。那智の滝133mは雨で煙っていた。

星さん:

5月26日(日)マンションで防災訓練をやった。参加者が少ないのが気になった。
避難訓練、通報訓練、消火器使用訓練、心肺蘇生・AED体験訓練、簡易担架による搬送訓練

吉田さん:

5月11日町会の防災訓練をやった。参加者は少なかった。今後は参加者を増やす事を考えているが、その考えに水を差す町会役員がいて、難しい。

内田さん:

パーキンソン病は1817年にジェームス・パーキンソンが発見した。それから70年後に明治になってから治療法が分かってきた。治療が出来るようになったのは100年後だった。パーキンソン病は体が徐々に具合が悪くなってくる。1980年代に薬が出来た。脳のドーパミンを補給する。病気の進行を止めることは出来ないが、当初は5年だったのが20年に延びている。

どうして罹患したのか原因不明。ドーパミン補充薬を使って日常生活を続ける事が精一杯だ。外出には注意している。IPS細胞に期待したが、再生は出来なかった。薬が切れると突然からだが動かなくなる。2~3時間で薬が効いてくる。この病気の人に「具合はどうですか」と聞くのは残酷な質問だ。

南さん:

清藤さんの詳しく分かりやすい歴史解説を聞きながら市内の歴史散歩をしている。

蕨には本陣が二つあったことを知った。

鉄道が好きで、明治26年1893年に蕨駅が開業したこと、その10年前に高崎線が熊谷まで開通した。その時出来た駅は上野~王子~浦和~上尾~鴻巣~熊谷の6つだった。塾生みんなで市内を散策したい。

八木さん:

5月25日世田谷美術館へ「民芸塾」を観に行った。机、椅子、箒、塵取り、蔓で編んだ籠、手作りガラス製品など素晴らしい作品を堪能した。昔の日常品は自然なもの(木、植物、土など)で創られている。今のプラスチック製品と違い、温かみがあり、美は暮らしのなかにある。心が和む。(用の美とはこういうことなのかと納得する)

渋谷から田園都市線の用賀駅北口で降りて徒歩で行った。美術館は大きな砧公園の一角に。

新井さん:

6月23日下蕨公民館でカラオケ大会で2曲歌うことになった。応援に行きたいね。

高木さん:

包丁の話、砥石の話、包丁がバカ売れた話など興味深い話だった。

荒井塾長:

首都圏直下型地震がいつ来るか分からないが、それよりも不確かで恐いのは富士山の爆発だ。最後に噴火したのは300年以上前(1707年)。噴火により大量の火山灰が降りかかって、インフラは全滅するだろう。特に高圧送電線がやられて長期の停電が心配される。

今、俺の大きな関心は東京都知事選挙だ。連坊さんと小池さんの戦いだ。俺の予想は小池さんが勝つだろう。連坊さんも良いけど、印象が冷たい。自民党が小池さんにくっついたので、小池さんも安全圏ではないが。7月7日夜の結果が楽しみです。次回はNASの都合により、第3木曜日(7月18日)です。



「シニアの風」

(順番制で行います。7月号は 内田 茂さんですので準備の程、宜しくお願い致します。)

「落語に学ぶ江戸の火災」

塾生 星 広行



『火事と喧嘩は江戸の華』江戸の町には木造の家屋が多く密集していたため、3年に一度は大火が起きていたと言われます。中でも明暦の大火(明暦3年(1657年)1月18日から20日)は、江戸の町の約半分を焼き尽くして数万人(3万人~10万人)が亡くなったため、ローマ大火やロンドン大火と共に世界三大火災に含まれるほど。

古典落語の中には、頻発する火災と向き合う江戸の町民の生活を題材にしたものが沢山あります。有名などころでは「火事息子」「厩火事」「ねずみ穴」「みそ蔵」等々があり、数えたらきりがありません。

八代目桂文楽の十八番「富久(とみきゅう)」は、「火事」と「富くじ」と「幫間」が主役。

主人公で幫間の久蔵はたまたま買った富札を自宅の神棚(大神宮様のお宮)にしまっておいたが、留守の間に長屋は火事に巻き込まれて焼けてしまった。

数日後に深川八幡で興行された富の抽選で、見事一等の千両が当たるも札はない。一等札を失ったことで落胆し、失意のどん底に落ちた久蔵だったが、同じ長屋に住む大工の頭領が神棚を運び出し、火事から難を逃れたと知ると大喜び。

一等札が戻った久蔵は『これも大神宮様のおかげです。ご近所のおはらいをします』とサゲています。2ヶ所で起きた火事に振り回されてまるでジェットコースターに乗っているかのような、目まぐるしい年末になった幫間久蔵の富くじにまつわる噺ですが、当時はやたらと火事が多かったことが分かります。





五代目柳家小さんが演じる「二番煎じ」は大変楽しい噺。大元は元禄時代に江戸で出版された「笑い話集」の中に載っているようです。落語としては上方の噺家が寄席に架けたことから始まり、東京では大正時代になってから広まったとか。

頻繁に火事に見舞われた江戸の町内には番小屋があり、常駐する番太郎が夜回りをしていた。しかし番太郎は酔っ払って寝てしまったり、寒いときには夜回りをさぼったりすることが多かったため、町内の旦那連中が集まって番太郎とは別に夜回りを始めた。

その夜回りを見回る町役人がいて、この旦那衆と町役人の掛け合いが面白おかしく聞く人を笑わせてくれます。

この噺の中で火事は起きませんが、旦那衆は火事を防ぐための夜回りを口実にして酒と肴を持って集まります。この時に偶然？ やってきた町役人が力関係(上下関係)を駆使して酒を横取りしようとする。旦那衆は「これはお酒ではなくお茶だ」とごまかすのに必死。この絡み合いが笑わせてくれます。

富久はパッピーエンド、二番煎じの落ちは大笑い。こんな噺が好きです。

5月 26 日(日)自宅マンションの防災訓練がありました。地震や火山の噴火・大雨による洪水などの自然災害に対し、火事の場合は人災によるものが多いかと思えます。自分で出来ることはくれぐれも注意したいものです。

完

6月になりました。二十四節気(にじゅうしせつき)の続きです。

芒種 ぼうしゅ (6/5~20 ごろ)



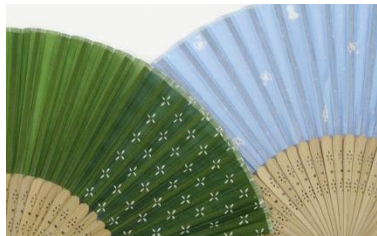
6月に入り雨の日が増え、じめじめした梅雨の気配を感じる頃となってきました。6月5日から6月20日頃までの時期を24節気での「芒種」といいます。

稲や麦など芒(のぎ)のある植物の種を蒔く頃で、かまきりや蛍が見られるようになり、梅の実が熟します。梅雨のじめじめした空模様もこの頃からはじまります。

昔、蕨でも蛍は見られたのでしょうか？ 梅と聞くと、私は「梅酒」を思い出します。

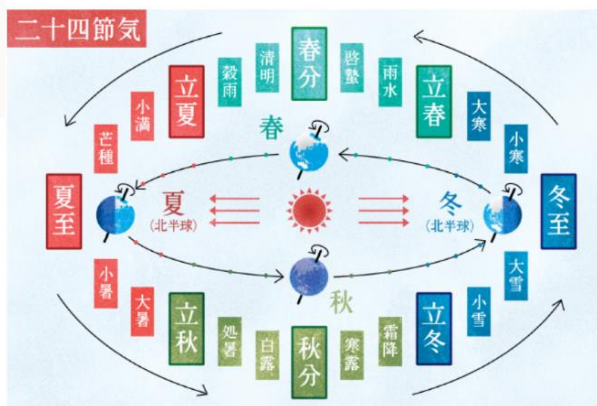
食欲のない日は、氷か炭酸で割った梅酒(チョーヤ梅酒ですが)は口がサッパリして、今も自宅で飲んでいます。

夏至 げし (6/21~7/6 ごろ)



一年でいちばん昼の時間が長くなる頃で、日の出から日の入りまでの時間がもっとも長い日が夏至です。いつが夏至かは天文学的に決まり、毎年、6月21日か22日です。この日を境にだんだんと日が短くなっていきます。アヤメなど夏の花が咲きはじめ、暑さが増していきます。

関東での食べ物では「タコ」を食べる習慣があるそうですが、タコの刺身、タコ焼き、タコ田楽・・・あまり思いつきませんが、タコの酢漬けもサッパリしていますね。まさに梅酒とタコ刺を縁側で、なんて贅沢なことは出来ませんね。(縁側がない:笑い)



続く